

病害虫の
見分け方
シリーズ

野菜・花き類を加害するハモグリバエ類の見分け方

京都府農林水産技術センター生物資源研究センター **徳丸晋** **徳丸晋** **徳丸晋** **徳丸晋**

はじめに

ハモグリバエは、ハエ目 (Diptera)、ハモグリバエ科 (Agromyzidae) に属する小型 (体長約 3 mm) のハエであり、多くの農業害虫が含まれている (SPENCER, 1973)。ハモグリバエは雌成虫が、産卵管で葉の表皮に小さな穴をあけて葉の中に産卵する。ふ化した幼虫は、葉の中の組織を食べ進み白い筋状の潜孔を形成する。幼虫による加害が激しい場合、葉は白化する (図-1)。ハモグリバエの加害によって、果菜類では収穫対象である果実は加害されないので、間接的に損害が生じる。一方、葉菜・花き類では収穫対象である葉が直接損傷を受けるので、加害量はわずかでも生産物の品質は著しく低下する。

我が国の野菜および花き類の生産現場において主に問題になるハモグリバエは、トマトハモグリバエ *Liriomyza sativae* BLANCHARD, マメハモグリバエ *L. trifolii* (BURGESS), アシグロハモグリバエ *L. huidobrensis* (BLANCHARD), ナスハモグリバエ *L. bryoniae* (KALTENBACH), ネギハモグリバエ *L. chinensis* (KATO) およびナモグリバエ *Chromatomyia horticola* (GOUREAU) の 6 種である (徳丸, 2010)。6 種ハモグリバエの卵、幼虫、蛹および成虫は互いに形態が似ており、生産現場において発生種を識別することは難しい (徳丸, 2018)。一方で、6 種ハモグリバエの発育、増殖能力等の生物学的特性、寄主植物および殺虫剤感受性は種により異なり (徳丸, 2010)、正しく防除対策を構じるためには、発生しているハモグリバエの種を正確に特定することが重要となる。

本稿では、我が国の野菜および花き類で発生する 6 種ハモグリバエ類について簡単に紹介するとともに、生産現場である程度実施できる簡易的な識別法についても紹介する。なお、詳細な 6 種ハモグリバエの発生生態および防除対策に関しては、徳丸 (2008 ; 2010 ; 2018 ; 2019) を参照していただきたい。



図-1 トマトハモグリバエ (左:キュウリ) とネギハモグリバエバイオタイプ B (右:ネギ) による被害葉

How to Recognise *Liriomyza sativae*, *L. trifolii*, *L. bryoniae*, *L. huidobrensis*, *L. chinensis*, and *Chromatomyia horticola* that Attack Vegetables and Flowers. By Susumu TOKUMARU

(キーワード: ハモグリバエ類, 同定法, 簡易識別法, 生殖器, 潜孔痕, 寄主植物)